



島山紀行

中村俊定文庫
文庫 18
240





島血紀元



昏路狂聯 庚韻

星 白シラム 自レ 梅 春ノ 夜
輝キラ 々ト 右ヨリ 明



彩^{イロ}於^ラ霞^{カスミ}海^{ウミ}限^{リミ}
旭^{アサヒ}照^{テラ}々^々真^{マコト}頼^{タカ}
吾^{ワガ}喰^ク也^{ナリ}為^{ナリ}衆^{タガ}
僕^{ボク}擔^{カウイテ}而^{シテ}可^レ行^ク
品^{シヤク}川^{カハ}簇^{クワシ}品^{シヤク}好^シ
鈴^{スズ}杜^ト駁^{ハク}鈴^{スズ}銜^{ケン}
啣^{クハ}燗^{ケン}筒^{ツツ}胡^コ咎^{トカ}
長^{チカ}朱^{シュ}韜^{タウ}莫^{マカレ}驚^{オドロク}

茶^{チヤ}瓶^{ビン}薰^{クワン}座^ザ席^{セキ}
木^キ枕^{マクら}賦^フ違^ヒ棚^ナ
三^{サン}度^{タク}簾^{カサ}如^ク羽^{トウ}
六^{ロク}郷^{キョウ}艘^{フナボネ}欲^ス諍^{イサカヘト}
河^{カハ}崎^{サキ}今^{イマ}少^シ許^{イカリ}
池^{イケ}上^{ノヘ}在^{ニル}奚^{ナニ}程^カ
橋^{ハシ}際^{サヘ}誰^{レカ}歸^ル鶴^{ツル}
藪^{ヤブ}蔭^{カゲ}獨^リ聽^ク鶯^ウ

登^ル肩^ク蜘蛛^ノ助^カ汗^ニ
捲^ル腕^ヲ馬^ノ平^カ黥^{イレスミ}
詞^ハ舟^キ瘦^{カサレヤ}哉^ニ鄙^ニ
凡^ク端^レ美^{シイカサ}兵^ノ京^ニ
温^{ヌメ}居^ル風^ノ呂^ノ淺^ク
真^ク貨^シ布^ノ團^ノ輕^シ
愛^ル想^ハ郵^{ヤトリノ}馴^ル涖^ミ
饗^ル應^ハ叢^ノ見^ル晴^シ

片^ノ敷^{シヤテ}寝^ニ袖^カ浦^ニ
這^ノ入^テ覗^ク人^ノ坑^ク
帷^{カタヒラフ}驛^ノ合^ニ身^ノ冷^{シク}
餐^{ヤキモチ}寢^{サカ}豈^ニ腹^ノ脰^{ツツ}
揉^{モミ}東^ノ吹^ニ岸^ノ柝^ノ
散^ニ道^ノ面^ニ巒^ノ櫻^ノ
國^ノ境^ノ杭^{クニ}書^ク吏^{ツツサ}
辻^ノ堂^ノ墨^ニ蹟^{コトス}名^ニ

鯁^ハ一^ハ鮓^ハ看^一板^ノ紙
粉^ハ一^ハ餅^ハ筭^一盤^ノ璜
十^一塚禽^一毛^一擗
八^一幡^一罽^一口^一丁^一
松^一原^一枝^一綠^一茂^一
麥^一一^ハ畠^一穗^一青^一賡^一
何^一一^ハ寺^一鳴^一勤^一響^一
每^一一^ハ家^一喚^一泊^一聲^一

咄^ハ一^ハ橫^一山^一謀^一計^一
噓^ハ一^ハ小^一栗^一蕪^一生^一
從^レ一^ハ是^一鎌^一倉^一路^一
干^レ一^ハ先^一復^一島^一瀛^一
襖^一一^ハ屏^一無^一埒^一繪^一
碁^一一^ハ石^一不^一調^一枰^一
田^一一^ハ舍^一女^一常^一跣^一
濱^一一^ハ邊^一童^一皆^一程^一

下_レ足 眞_カ 椽ノ月ノ影
採_レ筆_ヲ 宿ノ花ノ栄_サ

元文丁巳春

岩瀬雪岑水戯題



岩瀬氏に延宝丁巳の年... 元文の世... 後子春... 岩崎堂春流雅度... 米之

神ノ鶴 舞_フ 春ノ久_キ

茂山

長州原居 備前 自其家之場白はくまふ
 孝行の社のおはげ御宗より一はくまふ
 みのらみくくともはくまふまふはくまふ
 作れはくまふまふまふまふまふまふ
 多し入納の字をまふまふまふまふ

うたやちりばみまふまふまふ

屋久入の古武ら義の性河

あさひまのちのあやの壺塘

倦^レ番^ニ瓜 小^一屋

饗^レ貴^ラ檜 三^一方

岑水

麥阿

馬光

器水

雄真

長^一袴^ハ 月^ノ空^ラ色

勿^レ袖^トくくえんやれ 帳^カ

輝^トてく^レ刈^レ田^レ結^レ水^ノ個^ニり

居^一熟^ナ 似^レ還^レ郷^ニ

河^ノ噴^キて表^トを全^ク結^テ響^ク示^ス

通^レ樽^ハ 雪^ノ日^ハ 遑^イ

河^ノ孫^ハけ^レ毎^レ房^ノと^リ行^キじ^キ

ま^まら^らう^うま^まま^まま^まま^まま^まま^ま

一得

珪琳

寥和

午寂

祇徳

号水

祇明

宗瑞

奇合最出人 物々わいふ悪

頬イカサレ杖 若イカサレ何 腸モウモイ

赤アカ釘ツ 呪フ出シ歯ツ

交カ錢ニ 遣フ雁カシクビ元ツ

中橋弘治松所の夕月夜

らラのノ物モノ々々いイてテ流リうウけるケル林

花ハ飛テ茶ニ釜ニ馥ニ

桃ハ副ニ草ニ鮓ニ饗ニ

魚貫

緑吹

雌蟬

一得

了見

解座

虎有

恙水

逃ニ雀ニ兒コ振リ袖

呼ニ猫ニ焼ト御ニ囊

立如ううのうは田橋の人をさし

社家とやうな社多し乃固

屏マ風 戕マ古マ筆

俣の心あかり何きまもろく

禁サ盃 殊サ外 寂サ

兼ニといらまゝく日のあけ場ニ

魚子

茶久

宗瑞

表阿

茶水

英費

紫英

解明

朝アサ寐ネ崇ツル朝アサ月ツキ

昔コト談ワザ恐オソ昔コト商シヤウ

山の井イハ流ナリ流ナリ流ナリ流ナリ流ナリ

ふんフン便ベン便ベン便ベン便ベン便ベン

ほホほホほホほホほホ

あアあアあアあアあア

碓ツツ還マダ初ハツ起ツキ巾キン

膳テン己ニ出デ崩ス王ワウ

本家

雄偉

岩水

馬光

陸羽

宗瑞

寒雅

卷之

又マタ又マタ又マタ又マタ又マタ

母ハハ氣キ扱ハ孤コ娘ニヤウ

煙エン艸ソウ焦ユス懷ヒラ疊ヒラ

霜シラ梅バイ饋ケイ産サン筐カウ

又マタ又マタ又マタ又マタ又マタ

又マタ又マタ又マタ又マタ又マタ

增ゾウ光クワウ目メ聰ソウ菰モ

載サイ智チ口コ號ガウ薑キヤウ

徳臣

一得

岑名

菓子

徳臣

岑名

一得

縁吹

仇みよ費つる終ゆひのほりり
我し獨り醒る身し揚り
花桶と籠のしるしやうつをさうへ
むね樹立のしるしをさうへ
了見
岑水
宗瑞
源澄

轉回山

はるのそま社くはるのそま
吟雨

巨福松坂

むら坂のすけらの坂や春の
寥和

松尾舟又天

舟の舵は松尾の舟をくはるしは
岑水

新玉船庵

庵の舟や打んんとするの舟の船
來丸

建長寺

遠りや松尾の舟の船ははみ
常仙

松岡

人坐屋奥より中へ来れば

祇明

圓光寺

山と瑞鹿

扉やらお山と仰せしもの

九波

細川地蔵

あつらひやせむしの河を流るの菱

緑吹

扇谷

志しやわらわの石を流る

訥子

源氏山

水簾流るるを流るるの雪

一得

真福寺

かきと流れる

ふしむかや流の佛は白く

岑水

梅谷

むかしや平桑月を流る

荷瑤

傾舟坂

けしむ坂を流るる人

とせ

長谷観音

いづれもあつた長谷千早の歌

沼山

大佛

源氏の仏と為し一丁の空若

祇徳

景政祠

さくらとて矢先をぬけておるか

午寂

星月夜井

梅の葉も下りて星の井戸

岑水

栴梨寺

折るやふりしちみ佛の座

十雨

月影の石

作しせぬわらふし一鹿野

椒花

岩雲掛表

岩浪のやうなもた乃藤列松

とせ

輪村の橋

長の四千輪むらむら千代の歌

栢筵

七里溪

長尾十波と七里石巻あり

魚貫

行合川

行合川と流るる河に蘆の葎

紙長

種之浦

種之浦と具とまじり葉紙つら

啄木

満福寺

花と葉の比十波と石とみ

紙雲

此寺は本阿の村にありて流村の
氏家（姓）ありてあり

橋下川とありて葉紙と葉

岑水

紙心寺

花紙と心法紙流るる河

晋阿

尺五と雲

南一松と石とありて二月

曉雨

尺二と淵

と心ありてありてありて

喬谷

魚板石

比之龍淵もあつてふち合熟後

珪琳

奉納御請漢和雜句 百頁

法字竟意の死行、此就元と多葉
洞といふ終妙多ういふと出で尾乃
うてりるる月極むとよみ意と作

穴ナ 繁ト 花ノ 繪ノ 寫

岑水

波のまの繁結うらうらうと伝

祇徳

まのんたまのれ海掛のまのけて

宗瑞

俄カ 輝テ 欲レ 飾ト 麿ラ

岑水

餅カ 飲カ 酒カ 曷イレカ 是レ

寒驴

船ト 與レ 駕カ 護カ 先キ

岑水

馬の月極場の所結まのけて

馬光

馬の月極場の所結まのけて

表阿

右下畧 載ス 俳諧漢和稿ニ

○ 宜可改正

頼朝屋敷

ふらふらと歩くまはるの松葉

馬光

在柄乙神

寺山の窓のこころや名は

女 祇負

秋本親吉

春は年々花と水鏡の角は

長勢

奇橋

うらやまのこころは地乃寺の橋

とせ

一覽亭

まじりては御局の雲は御月と世界

魚子

桐子岩

暖かぬし熱かき山はくさ

千観

鷲峰山

花を十元わくは鷲峰の雲

暗刺

後醍醐天皇

燈籠十毛虫めくつは女子年

花梅

法馬玲場

了の月夜多々如く於る回場也

峯水

稻荷山

和年又相續多々如く於る回場也

巫峽

清川

乃下下下流を至る所のありり

空翠

名法山

須賀の寺なる山に於る解也

曾夕

河本寺

河本寺の寺なる山に於る解也

百洲

北條至禪

在りし一寺なる山に於る解也

唯窓

補陀庵寺

平家の補陀庵
と云ふ也

ありし寺なる山に於る解也

峯水

和年相續

和年相續多々如く於る回場也

半株

宝舟渡

波の音 櫓の音 舟の音

舟音

光明寺

去らじー十和の外は波の音

紫色

新園寺

十月十日の夜は橋の音

台夫

白蓮乞女

乞女は心ごとく舟の音

捐雨

花ヶ谷

あゝ松の透るくや谷はあ

汶光

純ヶ谷

雛の音とくくや谷はあ

匠牛

杜戸明神

木立の音とくくや谷の音

白土

名所

岩角の音とくくやの音

園香

朝比奈切通

屋下百十河... 橋

岑水

泉缺地苑

武... 地苑... 何... 泉...

岑水

天... 橋... 山...

山...

空然寺

飛...

飛... 此所

呈瑞

瀬戸明神

放...

岩...

岑花

悠手飛雲

悠...

麥阿

稱名寺

宣...

中...

宗瑞

能見堂卒題

往昔北条氏建文庫於金澤
分朱墨印藏儒釋之書其
蹤在目下故前孫用此

灞雪岩寒驢

路繞羊腸濃見堂

坐懷水色負山光

丹青擲筆松仍有

朱墨分文庫已亡

嶋後孤帆春齋遍

村前漁網暮雲張

躊躇只恨不吟盡

戲挂蔓藤繫夕陽

島山記り後序

やまのみこころは家には屏風と杖
とをてしめてのみこころの年を
祝ひ給ふ。吾黨乃士人のついでを
つとむ。わがもあはれ。あはれ。わが
ちからから。灞雪老人。齡六十。加算
算の句をせちに求むんも。さう
あはれ。六十一。孫倉山の秋
を。孫倉山の秋。杖を。孫倉
山の秋。乃道。乃道。乃道。乃道。

明應八年三月四日愛宕國師の和句に
竺山和尚の漢句付の。是等をや
濫觴と云ふは。公任卿の和後朗詠
集。兼良公の和漢篇の。和を
先とて。漢を後とす。是の國の
を愛する人。を以て道に流をいり。
土期夢奇を云ふ。洞容質摩を
云ふ。又其月あはぬ。漸法。月
かしの。靴も。おもしろ。興ある
つ。對句より。正體異體

脚句朱引依季本異兩朝互變體合
掌字あげて。おもしろ。あふり
連歌漢和の式目。和漢式目は父母あり。
あふり。和漢和の式目を一等寄る。
此のあふり。連歌和の家あり。
和漢より。是をいふ。正は
叔父とや名はあふり。好是。この撰者
和をいふ。吾も。和漢をい
の。あふり。後章。全との。
は集や。和。は集や。年。は集

也。能り。此集也。年賀。

後學 水光洞 祇德謹跋



割劇氏

芥澤啄木

文政元年春

岩崎堂
春流
雅度
采之

